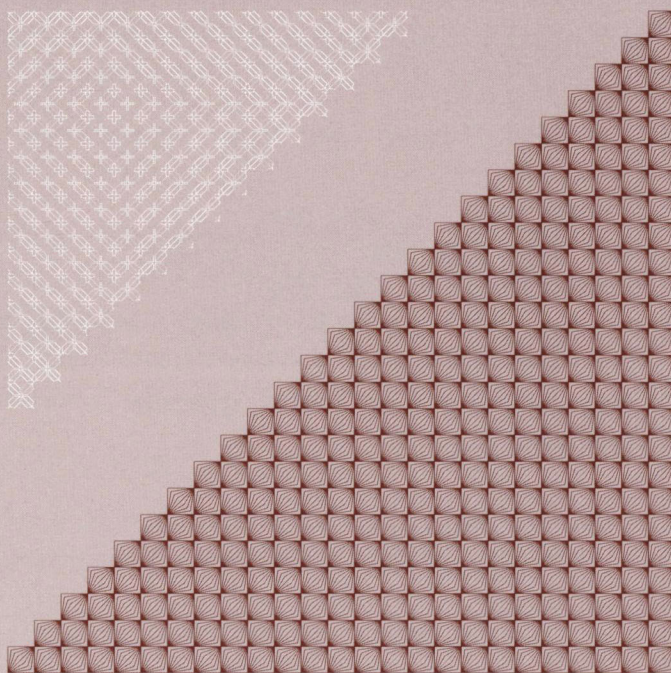


PRO MUSICA NIPPONIA



日本音楽集団

第148回◆定期演奏会
水仙考<ナルキッソス>



Arts Plan 21



芸術文化振興基金

1997年9月29日(月) 午後7時開演
津田ホール

主催=日本音楽集団
助成=文化庁・日本芸術文化振興会
舞台芸術振興事業

プログラム

1、秋の一日 (1985年)

長沢勝俊 作曲

<序曲><どんぐりごままわそう><いわし雲みつけた>
<祭囃子がよんでいる><終曲>

[笛] 越智 成人 [尺 八] 加藤 秀和
[三味線] 山崎千鶴子 [琵琶] 石田 さえ
[二十絃] 桜井 智永 [十七絃] 大畠菜穂子
[打楽器] 立枝 恵子

2、三本の尺八によるソネット (1962年)

三木 稔 作曲

[尺 八] I : 藤崎 重康 II : 宮田耕八朗 III : 三橋 貴風

3、響影空間 (1996年) —改訂・初演—

秋岸寛久 作曲

独奏群

[尺 八] 三橋 貴風 [三味線] 簀田 司郎 [打楽器] 黒坂 昇

合奏群

[笛] I : 藤崎 重康 II : 越智 成人
[尺 八] 添川 浩史・加藤 秀和・菅原久仁義 (助演)
[琵琶] I : 山田まゆ美 II : 石田 さえ
[二十絃] I : 久東 寿子・早川 智子 II : 梅澤 一美・高橋はるな
[十七絃] 中垣 雅葉・前川美保子
[打楽器] 望月太喜之丞・立枝 恵子・笹井 由香 (助演)
[指揮] 田村 拓男

————— 休 憩 —————

4、水仙考<ナルキッソス> ~邦楽器・歌い手による —委嘱・初演—

まえた 純 作・牧野由多可 作曲

[ソプラノ] 山田 綾子(客演)
[地 謡] 友淵のりえ・遠藤 智子・久松 彩子(客演)
[舞] 花柳 茂珠(客演)

[笛] 越智 成人 [尺 八] 加藤 秀和
[胡 弓] 畦地 慶司
[箏] 梅澤 一美
[二十絃] I : 桜井 智永・高橋はるな II : 久東 寿子・桐岡知代
[十七絃] 大畠菜穂子・丸岡 映美 [打楽器] 立枝 恵子
[指揮] 田村 拓男

曲目解説

秋の一日

日本音楽集団の多彩な合奏の魅力を生七人構成の中にとりこみ、日本の豊かな四季を簡明直載に描こうとしたのが1980年に作曲された「冬の日・パートII」。その後「四季」シリーズとして「秋の一日」(1985年)、「夏の日」(1994年)、「春の日」(1997年)が生まれました。

都会生活の中では急速に季節感が失われつつある昨今ですが、この失ってはならない大切なものを、大人も子供も一緒になってもう一度見付けなおし、呼び戻そうという願いをもって作られた作品です。

1985年に作曲され、同年日本音楽集団第90回定期演奏会で初演されました。楽器編成は、笛、尺八、三味線、琵琶、二十絃箏、十七絃、打楽器です。

三本の尺八によるソネット

ソネットとは、14行詩、小詩のことです。ここでは三本の尺八のための小さな歌というほどの意味で用いられています。作曲者がデモニーシユな「本曲」にまだ接することのなかった時期の、日本の楽器のための最初の作品です。ナイーブで美しい旋律がちりばめられており、それぞれの旋律は奏者によって自由に装飾されてゆきます。

1962年に作曲され、箏独奏の「芽生え」と併せて、映画「愛のコリーダ」のテーマとして使われました。

響影空間

尺八、三味線、打楽器と邦楽器群のための協奏曲です。各楽器群の細かいキザミと独奏楽器群の即興的な動きが対照的なI章、尺八と三味線の二重奏と合奏群が対比をなすゆっくりとしたテンポのII章、打楽器群の活躍するテンポの速いIII章からなっています。

日本音楽集団第141回定期演奏会で初演されましたが、今回再演にあたって、より独奏楽器群が際立つように改訂されました。

水仙考<ナルキッソス>

美しいナルキッソスを恋したばかりに、こだまになった山のニンフ エコーの悲恋。そのエコーの仕返しを受け、わが身に恋してしまうナルキッソスの悲劇。これをギリシャ神話そのままに唯、悲劇と感じ取っていいのか？

雪中に咲く水仙は「大地の暖かい心を得て、美しく可憐に咲き誇る」。この強かな宇宙の神秘な力こそナルキッソスが最後に求めた「至福の心」ではないのか！

音と情感で描き出した「水仙考」悲曲幻想をお楽しみください。

(まえだ 純)

泉にうつる我が身のあまりの美しさに見とれて、その姿に恋をして、一体となり、やがて一輪の水仙の花となる物語は、あまりにも有名で、いわゆるナルシズムの極である。台本作者のまえだ純氏の考えにより、ナルキッソスの物語をソプラノと邦楽発声の地謡とを対照させ、バックは邦楽器のオーケストラで進行させてゆくという形を取った一つのカンタータのような作品を作ることとなった。それに地唄舞を交えるという、ユニークな作品は、今までに有ったか無かったか、定かではない。

曲想は、極めてリリカルであり、美と悲しみと浄化とを求めた。私の考えでは、今回の初演は、演奏会形式のカンタータとなるが、女声のみのオペラともなり得るように思い作曲をした。

(牧野由多可)

客演者プロフィール

山田 綾子 (ソプラノ)

国立音楽大学卒業、同大学院オペラ科、二期会オペラスタジオ第29期生（最優秀賞「川崎静子賞」受賞）、及びオペラ研修第6期生終了。1985年文化庁芸術家国内研修員。同年、第一回日本モーツァルトコンクール第3位、前田銅賞受賞。1991年文化庁派遣芸術家在外研修員としてウィーン留学。主に、オラトリオとコロラトゥーラの歌唱表現とその技術について研鑽を積む一方、ウィーン国立音楽大学オペラ科に学び帰国。

平野忠彦、小松道子、酒井貞子、スーザン・デニス＝ガブリエルの各師に師事。

「魔笛」の夜の女王でオペラ・デビュー以来、リリック・コロラトゥーラソプラノとして、多数のオペラに出演。又、宗教音楽、ドイツ歌曲、日本歌曲、オペレッタ、ミュージカルなどの幅広いレパートリーを持ち、各種コンサート活動も行っている。二期会会員。

花柳 茂珠 (舞)

東京新聞主催「舞踊コンクール」において邦舞第一部ならびに創作の部で各々第一位文部大臣賞受賞、日本舞踊協会主催「新春舞踊大会」において大会賞ならびに会長賞受賞。

「茂珠私演会」「東横創作の会」「創作舞踊展」などで多くの作品を発表。また、日本民族舞踊団員として、モントリオール万博、アメリカ、メキシコ、ミュンヘン・オリンピック、旧ソ連、東欧などでの公演に参加。創作舞踊家として、キューバ、パナマなど中南米公演にも主演。平成2年より「月の会」結成、3人の仲間と活躍中。

友瀨のりえ (地謡)

幼少より母友瀨雅富志に手ほどきを受け、のち中島靖子、平井澄子、菊原初子各師に師事する。1969年正派音楽院本科音楽科卒業。1970年NHK邦楽技能者育成会卒業。1974年第1回リサイタル以降、1996年まで通算20回開催。1984年長野県芸術文化使節としてオーストラリア各地で公演。1987年、88年文化庁芸術祭賞を2年連続受賞。1989年国際交流基金の派遣で旧ソ連各地で公演。1991年日本コロムビアよりCD「日本の唄・友瀨のりえの世界」発売。1996年松尾芸能賞受賞。正派邦楽会所属。

遠藤 智子 (地謡)

1991年東京芸術大学邦楽科箏曲卒業。1992年NHK邦楽技能者育成会卒業。友瀨のりえ師に師事。現在正派邦楽会所属。森の会々員。

久松 彩子 (地謡)

1992年東京芸術大学邦楽科箏曲卒業。1993年NHK邦楽技能者育成会卒業。友瀨のりえ師に師事。現在正派邦楽会所属。森の会々員。

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437